

第 1 展示室：有田焼の歴史

「有田焼の歴史」では、肥前国（ひぜんのかくに）（現在の佐賀県と長崎県）で生産された磁器の基本的な情報を、過去 4 世紀にわたる肥前の生産技術や国内での流通、海外との交易について説明している。

また、肥前焼の中でも有田焼の歴史を中心に、有田焼の磁石の鉱床が発見されてからの発展、有田焼の国内外での交易、人々の暮らしにおける役割を展示している。また、この第 1 展示室では蒲原（かんばら）コレクションの 101 点も展示されており、欧州に輸出された有田焼も大きく取り上げている。

第 2 展示室：柴田（しばた）夫妻コレクション

柴田夫妻コレクションは、江戸（えど）時代（1603～1867）の有田焼およそ 10,000 点を集めたもので、1990 年代から 2000 年代初めにかけて寄贈された。コレクションの中から約 1,000 点が展示されており、年に 1 回入れ替えが行われる。有田焼の歴史の中から各時代の代表的な作品が選ばれており、流行の変遷や生産技術の発展を分かりやすく示している。コレクションは国の登録有形文化財となっている。

第 3 展示室：九州の古陶磁

「九州の古陶磁」では、毎年、江戸時代（1603～1867）の作品約 100 点を中心に紹介している。作品は、九州（佐賀（さが）・長崎（ながさき）・福岡（ふくおか）・熊本（くまもと）・大分（おおいた）・宮崎（みやざき）・鹿児島（かごしま））そして沖縄（おきなわ）という現在の県ごとに分けて展示されている。唐津（からつ）焼、日本初の磁器（現在は初期伊万里（しよきいまり）と呼ばれる）のほか、その後発展して生まれた柿右衛門（かきえもん）様式や金襴手様式の有田焼が主に展示されている。各県の名窯で作られた陶磁器は、九州各地における陶磁器の多様さを物語っている。

第 4 展示室：現代の九州陶芸

「現代の九州陶芸」に展示されている独創性のある革新的な作品は、九州において陶磁器が歴史的に多様な使われ方をしてきたことを示している。伝統的なものから前衛的なものまで様々な陶芸技術を駆使した、九州各地のおよそ 100 名の作家の作品が展示されており、年に 1 回入れ替えが行われている。作品の大半が、日展（にってん）や日本工芸会など伝統工芸に関する主な組織に所属している作家のものである。